

## 履修モジュール (文化と表象)

情報コミュニケーション学部

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
40	人類の知的遺産を辿る	より根源的に、より原理的に物事を考えたい人向けのモジュールです。基本的に古古典のギリシアから始まる西洋の知的伝統を時系列に辿ってゆくことになりますが、重要なことは人物の列伝ではなく、どのような問題が提起され、その問題にどのようなアプローチで対処したのか、という問題史的な観点です。	ジェンダー論 法學・政治學 宗教學 生命論A・B 生物学 科學技術史	経済思想史 社会思想史 社会思想史 メテイア論 記号論 倫理学	大黒岳彦
41	情報社会の現在を思想的に把握する	二〇一年にはっきりとした形を取った情報社会はインターネットという社会インフラを基礎に、新たな社会構造を築き上げつつあります。これから四半世紀の内にはスマート本体となり、それに替わって、IoTやウェアラブル、ロボットがメディアの主導的地位を占めることでしょう。情報社会の現在と未来を社会科学的に把握します。	社会学A・B メテイア・アート・ラシード 歴史学・哲学 西洋史概論 情報社会と經濟 組織論	政治とメデイア マスコミュニケーション論A・B 情報政策論A・B メテイアの歴史 メテイア論・記号論 映像表現論	大黒岳彦
42	「メテイア」とは何か? という問題を取り組む	メディア論というデジタル・ブームを打ち上げるのは、カナの文部省批評誌「マクルーハン」でした。彼が生きた時代の最新メディアはTVでした。ですが現在、メディアの最先端は、SNSやYouTube、そして更にはSmart Glassなどのロボットに移行しつつあります。こうした観点から、そもそも「メテイア」は何なのか? という問題を原理的に考えます。	環境と社会 生命論A・B コスモロジー メテイア・アート・ラシード・情報倫理 言語学・哲学 情報科学・脳科学	コミュニケーション思想史 身体表現論 身体表現論 人間心理学 科学技術と人間 メテイア論・記号論	大黒岳彦
43	日本の国際社会における将来を備団との関係から考える	韓国・中国と日本の関係は良好とはいえない。日本と韓国・中国との歴史的関係を知ることもなく、感情的に他者への批判や非難を行っているかも知れない。19世紀、帝国本邦が殖民地を獲得していった、という歴史はあると思う。大事なことは、他の民族を支離解体して資源を確保する、というこの意味を、被害と加害という観點から「知る」ことにある。アシドにおける日本の未来はどうあるべきかをささやきます。	歴史学 日本史概論 東洋史概論	異文化コミュニケーション史 社会文化史 国際関係論I・II 近・現代史I・II 地域文化論(中国・朝鮮)	須田努
44	なぜ、「沖縄に米軍基地は集中しているのか」 「沖縄問題の歴史的文献から考察する	軍事基地移転問題に対して、本土の人ほどは無関心である。沖縄では、今も米兵・米軍関係者による暴力事件があとをたたない。日本全体の0.5%の重慶しかない沖縄に、在日米軍基地の約75%が集中している。なぜ、このような理不尽な状況が続いているのであろうか。	歴史学 日本史概論 東洋史概論 地理学	異文化コミュニケーション史 社会文化史A・B	須田努
45	現代政治の無責任のあり方の根柢を考える	コロナ禍に対する日本政府の対応を見てても、なぜ日本の行政者はこれほど無責任なのか、との疑問が起こる。政治思想史の専門家丸山真男は、近代天皇制と日本帝國主義のあり方から、この問題に取り「無責任の体系」との概念を構築しました。しかし、どうもその根は深そうである。江戸時代に形成された社会文化に根柢があるかもしれない。	歴史学 日本史概論 社会学A・B 東洋史概論 西洋史概論	現代政治学I・II 社会文化史 近・現代史I・II	須田努
46	メディア批评でポビュラーカルチャーを考える	映画、TV、ビデオなどポビュラーカルチャーを差別・偏見・権威に関する「政治的闘争の場」(site of political struggle)と看到えて見たことはありますか? 哲学、文学・社会学、言語学の理論を批判的方法論として当たはめことで、私たちが生れる社会がメディアによって構築されたときに気づくために、どのように超越的象徴(representation)を分析できるのかを考えてみましょう。	ジェンダー論 メテイア・アート・ラシード バブリック・スピーチ・キング メテイア批评	社会文化史 比較文化 歴史文化 日本文化論 映像表現論 ジェンダーと社會 地城文化論(英米圏)	鈴木 健
47	世界文学を通してグローバルな視点と思考法を身につける	実用的な知識やスキルだけに満足できない人は、ぜひ文学や芸術を通して豊かな感性と思考法を身につけてください。学生時代に文学や芸術に親しみを育む習慣を身についておくと、一生の宝になります。ただし、ある意味で文学はすべての社会ともといえますので、周辺の科学もも興味を持つておこう! と同時に、どのように超越的象徴(representation)を分析できるのかを考えてみましょう。	外国文学・日本文学 比較文化 言語学 音楽論 哲学 生命論 心理学	比較文化・比較文化 歴史文化 日本文化論 映像文化論 音楽表現論	関口裕昭
48	「芸術(アート)とコミュニケーション」が交差する世界を探求しよう	「芸術表現」とは、言葉による言語的・アートだけでなく、色・形・音・香・身体····などの非言語的要素をも含む表現である。筆者表現によるコミュニケーションの特徴を、自らの経験のひき(ワークショップ)を通して探求しよう。	美術・藝術 演劇 身体コミュニケーション・B 音楽論 ウェルネス・スポーツA・B(日本舞踊)	音楽表現論 身体表現論 映像表現論 メディア教育論・日本文化論A・B デジタルアート・B 非言語コミュニケーション アート・アートメント	波照元永子
49	記者・ジャーナリストを目指す	国内外のマスコミやネットメディアなどの記者や、フリーランスなど増えたジャーナリストを目指す。ジャーナリズムやアートをつなげながら、記者としての行動をどうすればいいのか、記者としての責任感をどう持つべきかを理解して、記者としての腕を磨くための講義を実施する。また、大手学部六法、運営会議、英語、統計、倫理、国際政治、経営などを学ぶ。記者・ジャーナリストを目指す行動力と努力感、批判的思考力は、大学の体育会活動や学外でのボランティア活動、海でのインターンシップなどの活動で育まれる場合が多いもの。これらをお勧めする。	クリエイティブ・コミュニケーション キャリア・アドバイス 商業・経営学部の簿記2級合格の履修 会計学 法律と監査の初歩的内容	メディア論・記号論 広告論 地域文化論・英米圏論 異文化論 地城文化論 言語翻訳論・言語使用論・ディスクコース 言語翻訳論・言語使用論 音楽表現論	小田 光康
50	デジタルメディアのファンションとジェンダー表象	デジタルメディアが発達した現代社会のメディア環境で、記号的表象としての文化产品としてのファッショ(服装流行)は、今まで以上に西欧・アジア・南北米大陸・企業といった複数々のポータルで超越しなから重複的に展開し、形成・伝達・再構成されていく。つまり、ファンション・アート・アート・Bに含まれる表現文化としてのファッショとそれらを表象としてメディアで生成される規範としてのジェンダーファンシについて考究する。	社会学A・B ジェンダー論 メテイア批评	メテイア論・記号論 広告論 地域文化論・英米圏論 異文化論 地城文化論 言語翻訳論・言語使用論 ディスクコース 音楽表現論	高馬 京子
51	宗教から世界を読み解く	昨今国際情勢を考える際、宗教は重要な切り口の一つである。「イスラーム国(IS)」など宗教を掲げる過激派の活動、欧洲に流入するイスラーム系移民、ローマ皇帝の儀式などを始めとするヨーロッパの神話や宗教、日本では神道や仏教を中心とする祭り、宗教から世界を読み解くには、宗教に関する見聞に加え、歴史的知識や比較政治学なども不可欠である。つまり、これが「ガクのヨコミ」の特徴である学際的な研究で纏めることもある。	異文化理解 宗教学 地域文化論(基礎) 西洋史概論 東洋史概論	現代政治学I・II 多文化と相互理解I・II 国際関係論I・II 異文化コミュニケーション	横田貴之
52	学校教育における人びとの実践を読み解く	公教育はさまざまな制度によって規定される一方で、学校での具体的な実践は人びとが共有する文化による影響を受けている。ただ、制度や文化は人びとの行為を制限するかもしれないが、特に特徴的行動をとらざるわけではない。では、教師や子どもはどのようにして具体的な実践を繰り返しているのか。制度や文化を資源として人びとがやりとりを織成する。その仕方を解明明かす。	組織論 社会学A・B 社会学A・B	組織と情報 人権と政策 情報社会と教育A・B コミュニケーション論 組織コミュニケーションA・B	鈴木雅博
53	社会の反映としての文化・藝術	文学・演劇・映画・音楽などを始めとする文化・藝術には、それが作られた時代や地域の社会のありさまや問題が反映されている。そうした観点から、さまざまな時代の文化・藝術を分析する能力を身につけることは、私たちが生める現代社会について考える上でも有効な視点をもたらすところだ。	外国文学 日本文学 歴史学 地域文化論(基礎) メテイア・アート・ラシード	映像表現論 音楽表現論 日本文化論A・B 地域文化論 人文哲学論	日置貴之
54	日本文化の伝統と現代	日本には多くの伝統文化が残っているとともに、現代の新しい文化も日々生まれ出されている。それらはどのような性質を持っているのであろうか、さまざまな場面で、安易な「日本独自論」が叫ばれがちだが、歴史的知識の修得や他の地域の文化との比較を通じて日本文化を相対化し、冷眼に分析する能力を身につけてください。	日本文学 日本史概論 日本文化理解 比較文化(基礎) A・B	日本文化論 地域文化論 比較文化A・B 近・現代史 I・II	日置貴之
55	言語の働きを解説する	文字や音によつて意思や思想、感情等を他者に伝達するという意味で、言語は人間が社会生活を営む上で欠すことのできない要素である。では、そもそも、言語はどうのような種類があり、それらの言語はどのように生まれ、変化してきたのだろうか、また、空間の場において、言語はどのように研究されてきたのだろうか、音段より意識することのない言語の働きを振り下げるべく、言語学・記号論、音声学等の基礎知識の知識を理解する。	言語学 日本語表現I・II	記号論 自然言語の生成モデル 言語使用論・ディスクコース 英語言語学	内藤まりこ
56	言語の運用・表現能力を養む	人間は言語を用いて他者の意図伝達を図る。一言で言語といっても、日本語や英語のような国語の位相から、書き言葉・話し言葉・私的・公的言葉・書道・詩歌の位相に至るまで、言葉にはさまざまな位相がある。そして人間の豊かな言語の楽しみを把握する、自ら言葉を創造するようになるには、言語を運用する個人や集団が取巻き歩くや、その種種が生じた歴史や社会的背景への洞察力を養う必要がある。そこで、言語がどのように運用され、表現されたのかを具体的な場面や状況に即して学習する。	日本語表現I・II 異文化コミュニケーション史 バブリック・スピーチ・キング 異文化理解	言語翻訳研究 社会文化 言語表現論 自然言語の生成モデル 言語使用論・ディスクコース 法言コミュニケーション	内藤まりこ
57	情コミ的人文学の愉しみ	字学は「人文学院」「社会科学」「自然科学」「藝術科」の領域に区分されてきた。しかし、現世代には、この区分の骨組みでは捉えきれない複数の分野で、その行為を解説するためには、各分野の言葉を駆使する必要がある。日本文学や歴史学、言語翻訳論などは、その言葉を用いて何をするかを解説するためには、各分野の言葉を駆使する必要がある。そのようにして、学問の骨組みで学んでみると、このようないくつか異なる学問間で、その言葉を用いて何をするかを解説することが可能となるだろう。	哲学 宗教学 日本文学 歴史学 異文化コミュニケーション史 日本文學 東洋史概論 東西史概論	情報社会論A・B 社会文化A・B 近・現代史I・II 家族社会学 情報社会と教育A・B 都市情シ論	内藤まりこ
58	多言語世界の乗り方を理解する	現代社会において、日本にいながらにして日本以外での言語に触れる機会は多い。また、自ら海外に赴き、さまざまな言語を見聞きするところもあるだろう。しかししながら、そうした言語によって駆け抜けられた文化やそう簡単には理解できない。そこで、各言語や文化に関して語られてきた研究手帳から、自分でもさまざまな言語による文化的な美しさを考察してみよう。いくつもの言語や文化を軸に、多言語世界への接觸をより深めよう。	比較文化(基礎) A・B	比較文化A・B・C・D・E・F・G・H 地域文化論(英米圏) A・B 英米文学・外國文学 異文化コミュニケーション史 異文化コミュニケーション 英語翻訳論	内藤まりこ
59	言語から文化や社会を理解する	私達の生活中には、文字や映画、演劇、漫畫等、さまざまな言語表現が溢れています。それは趣味や娛樂の対象として広く享受されている。しかし、このような日常の慣習の場においては、言語表現が社会の物語に対する思考や認識のあり方を形作っているといふことはあまり意識されることは少ない。そこで、こうした言語表現の深層の動向に迫るべく、言語表現を読み解くための専門的な技術を蓄得し、日常生活の教科によっては導き出すことのできない作品の解釈や授業方を学習する。	日本語表現I・II 美学・藝術 演劇 メテイア・アート	言語翻訳研究 メテイア論 言語表現論 情報社会と芸術	内藤まりこ
60	効果的な外国语学習方法と教授法を理解する	外国语を学ぶことは何年も努力が必要である。新しい言語や文法形式を習得するため自分に適切なインプットの選び方を学んだり、効果的なワードロップの練習を理解し必要がある。また、自分の學習動機を持ち続ける方法を考えるのも重要である。第二言語習得の結果に基づいて適切な学習方法を作成する。	English Skills A I・II Critical Writing A・B	英語コミュニケーション・II 英語音声学	ドウ ティモシー
61	アカデミック英語を学ぶ	留学生など授業を受ける際勤勉に必要な英語は英会話で修得される英語とは非常に異なり、特別なスキルとストラテジーを学び、実践する必要である。アカデミック英語は複雑なものもあるが、シンプルで明確な表現と慣用表現の意味だけでなく、使い方も理解する。	English Skills A I・II Critical Writing A・B	英語コミュニケーション・II 英語の文化と歴史 英語音声学	ドウ ティモシー
62	「ことば」の仕組みを研究する	我々は日常生活の出来事を上手に用いて他者とコミュニケーションをと/orており、自分の母語に関しては何を知つているかに感じる。しかし、現世代は、この区分の骨組みでは捉えきれない複数の分野がある。例題は「なぜ『おもしろい』と『楽しい』』とは書きえますか?『おもしろい』と『楽しい』』とは何を意味するのか? などである。このモジュールは上記のような疑問に対して、言語学・哲学・脳科学などの分野を軸にアプローチする。	言語学 論理リテラシー 脳科学 言語	自然言語の生成モデル 言語使用論・ディスクコース 記号論 英語の文化と歴史 英語音声学	坂本 純太
63	「ことば」が社会文化のようすを能動的じでいるのかを研究する	我々の身の回りは「ことば」で溢れている。例題はお菓子の商品名、広告のキャッチフレーズなど、そのジャンルは多岐に渡るが、庄重・優雅と様々な疑問に直面する。例題は「ヨコヒマの商品名で、マリスとチャーリーは抱き合った写真はなぜか?」などである。このモジュールは上記のような疑問に対して、言語学・哲学・脳科学などの分野を軸にアプローチする。	言語学 統計学 経営学 社会心理学A・B 心理学A・B 社会調査法A・B	言語使用論・ディスクコース 記号論 イノベーションの経済学 広告論 不確実性への人間行動 消費行動の心理学	坂本 純太
64	「ことば」を介したコミュニケーションの不思議を研究する	我々は毎日「ことば」を上手く用いて他者とコミュニケーションをとっているが、その中にはよく考えてみると不思議な現象も多い。例題は「いかがカラオケ行く?」など「はい」「いいえ」の回答を求める疑問に対して、「いいえ、行きません」と直接的に答えるよりも「すこしく行くみたいですが、明日は限界早く」と説明的に断ることの方が多いだろう。このモジュールでは何がなぜか? などである。このモジュールは上記のような疑問に対して、言語学・心理学・経営学などの分野を軸にアプローチする。	言語学 美学・藝術 身体コミュニケーションA・B 音楽論 メテイア・アート	言語使用論・ディスクコース 記号論 異文化理解 社会心理学A・B 社会調査法A・B	坂本 純太
65	現代社会と文化の関係を考える	現代社会を経る上で、情報社会、グローバル化といった言葉がよく用いられるが、そこから生まれる文化にはどのような特徴があるのだろうか。また過去から受け継がれてきた伝統文化は現代社会においてどのような役割を持つのか。このような問いを、芸術、メテイアなど多角的な視点から考究する。	演劇 美学・藝術 身体コミュニケーションA・B 音楽論 メテイア・アート	音楽表現論・身体表現論・映像表現論 アート・マネジメント アート・アート論 地域文化論 情報社会・芸術 情報文化論	富川 涉

NO.	テーマ	概要	1・2年次	3・4年次	ゼミナール担当者
66	様々なメディアを使って自ら表現する	私たちは自分の考え、感情などを常に表現して生活をしている。そこから生まれた映画、演劇、ダンス、音楽などの芸術分野における表現方法とはどのようなものか。それらにどのような共通点、または相違点があるのかを理解すると夫に自身の表現力と創造性を高めることを目指す。	日本語表現Ⅰ・Ⅱ 演劇学 身体コミュニケーションA・B 專門情報・ラジオ メディア・アート 美学・芸術学	音楽表現論・身体表現論 映像表現論 造形表現論 メディア教育論 デジタル表現A・B 情報デザイン論	宮川 渉
67	文化产业のあり方を考える	20世紀以降に急激に発展した文化产业はメディアの変化と深く結びついている。そもそも文化产业自体が、ベンヤミンが指摘した複製技術の革新から生まれたと考えるならば、メディアの影響力は明白である。このメディアと文化产业の関係をより具体的に理解するために、それぞれの特徴とそこから生まれてくる商品・作品の特徴を多角的な視点から分析する。	情報社会と経済 音楽論 メディア・アート	メディア論 メディアの歴史 情報社会と芸術 知識社会と芸術 知的財産権A・B アート・マネジメント	宮川 渉